

指導行政のポイント

教育法規の優れた“レファレンス・ブック”

菱村 幸彦

自分が書いたり編集したりした図書を「これはいい本ですよ」と人に勧めるのは、自己宣伝と思われるのが嫌なので、私はしない。が、この本だけは例外としよう。

教育法規の重要項目を精選

「この本」というのは、私の監修した『全国学校管理職選考・直前要点整理』（教育開発研究所）である。題名に「管理職選考」をうたっているが、すでに学校管理職となった方にとっても、教育法規のレファレンス・ブックとして利用価値が大きい。

『要点整理』は、精選された教育法規の重要項目についてわかりやすく箇条書きで解説し、関連する重要情報を収集・整理し、あわせて関連法令を掲載している。で、学校経営の過程で生ずる法的問題に対処するための使い勝手のいい手引きとなっている。その意味では、『教育法規必携』『教育法規便覧』などというほうがふさわしいかもしれない。

本書は、かなり前から各年度版が出版されているが、私が直接手にしたのは、「2010年版」の出版にあたり「監修」を依頼されてからである。監修のため中身を子細に点検してみても、実によくできているのに感心した。2010年版は、13人の専門家の編集協力を得ているが、最初に本書をつくったのは、教育開発研究所の編集部員だという。これだけの優れたレファレンス・ブックを自前で作り出す教育開発研究所編集部のレベルの高さに改めて敬服した。

では、どこが、どう優れているのか。

第1は、項目が学校経営の立場からよく選び抜かれている点だ。本書は教育法規の重要項目を115に絞っている。いずれも過去の管理職選考試験を踏まえ、学校経営において日常的に問題となる項目を選んでいる。いわば「教育法規ミニマム・エッセンシャルズ115」とでもいうべき内容である。

必要な情報を漏れなく盛り込む

それを「教育制度」「学校の管理運営」「教職員の職務・サービス」「教職員の勤務条件」「教員の免許」「児童・生徒」「学習指導」「保健・安全」の8章に分類して、体系的に整理している。

第2は、各項目について必要な解説や情報が過不足なく盛り込まれていることだ。それを知るには、具体例をみるのが早い。例えば、「主幹教諭の職務」の項目をみると、こんな風にならされている。

○まず、「法定化の趣旨・背景」について、簡にして要を得た記述がある。

○次に、「主幹教諭の職務」について、学校教育法の条文に即して法的解説をしている。

○続いて、「主幹教諭の機能」として、補佐機能、企画調整機能、相談機能、人材育成機能、渉外機能、指導・監督機能を挙げ、その役割を解説している。

○さらに、主幹教諭の選考基準、処遇、加配について必要な情報を提供している。

○加えて、「主幹教諭と教頭の関係」「主幹教諭と主任の関係」について具体的に説明している。

○そして、最後に、「関連条文」として学校教育法37条の条文を掲げ、「参考資料」を掲げている。

第3は、内容が箇条書きで簡潔に記述されていることだ。各項目は平均3ページ半程度だが、そこに盛られている情報量は豊富である。それが可能となったのは、記述内容を整理して箇条書きにしているからだ。つまり、サブノートの要領で書かれている。受験勉強にサブノートが効果的であることは誰もが経験しているが、教育法規の学習にもサブノートの効用が大きいことを本書は示している。

ぜひ、手元に置いて、日常の学校経営に活用してほしい。

（ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究所 理事長）

■最新刊好評発売中！

菱村幸彦【監修】 A5判 410頁・定価 2,940円

教育開発研究所

『全国学校管理職選考 直前要点整理』

全訂新版『はじめて学ぶ教育法規』菱村幸彦【著】 B6判・定価 2,205円